【別紙７】遠隔会議システム機能評価項目一覧表

○：基本機能で対応可能　△：オプションで対応可能　×：対応不可

項目	内容	対応可否
基本機能	起動、操作が迅速かつ容易にできるようなシステムである。	
	ソフトウェアのインストール、ユーザIDの発行に制限がない。	
	カメラ、音声、ＰＣデータを複数の拠点で、遠隔共有できるシステムである。	
	同時に30台の会議端末と接続出来る。 通常の会議内で議長権や発表権等、権限の移譲が発生しない。	
	全ての拠点が同じ操作パネルで同じ操作性である。	
	操作パネルは一定時間使用しないと最小化される。	
	操作パネルは大きさや透過性を変更でき、画面上の表示位置も自由に動かせる。	
	タッチパネルモニターでの利用も考慮されたボタンの大きさや配置である。	
	多拠点双方向で同時に軌跡のリアルタイム共有含めペン書き込みができる。	
	ペン書き込みは、そのペン描画の動き（軌跡）もリアルタイムに共有できる。	
	１アクション（１ボタン）でＰＣのフル画面共有ができる。	
	書き込み後、自動消去される指示ペン機能を有している。	
	リアルタイム画面共有時における画面転送の待ち時間を短縮させるための機能を有する。	
	ホワイトボード機能を有する。	
	ある拠点がホワイトボードを拡大・縮小・上下・左右に動かした場合、接続する他の拠点でも、画面の動きが追随する。	
	1アクション（1ボタン）で全拠点にホワイトボードが表示され共有状態となる。	
	ＰＣのデスクトップ画面上に（動きのあるコンテンツの上にでも）ペン書き込みができる。	
	書き込んだ画面を保存できる。	
	保存された画面を複数ページに管理でき、PDFや画像データに保存できる。	
	録画機能を有する。	
	解像度の異なるＰＣ間でも、画面のフルサイズで資料データを見ることができる。	
	ＰＣ画面全体を遠隔共有できる。	
	クライアント端末でカメラを複数（2台）接続する事ができ、左右、上下、Picture in Pictureなどの2カメラレイアウトが自由に行える。	
	モバイル端末で撮影した現場写真を接続拠点に送信でき、タイムスタンプを付けてホワイトボードに表示できる。	
	最大接続数の範囲で、会議数はいくつでも作ることができる。	
	最大接続数の範囲であれば、拠点追加はライセンスの追加のみで対応できる。	
	256kbpsの通信帯域でも利用できる。	
	画像データ・色データを圧縮・減色しないで、忠実に再現させることができる。	
	クライアントの通信実効帯域を自動的に検出し、その帯域値に合わせてデータを送受信することで、モバイルやインターネット、海外などの通信状態の悪い環境にも柔軟に対応できる。	
	PC画面データの変化がないときは通信実効帯域を使用しない。	
	会議サーバで設定された利用可能通信帯域の範囲で、クライアントの通信帯域を自動的に割り当てる機能を有する。	
管理機能	主催拠点が突発的な障害などで切断しても、会議が終了しない。	
	PCの設定に依存せず、会議中にスクリーンセーバー、システムスタンバイ、休止状態に入らない。	
	通信帯域・ビデオ会議画質（解像度）を各拠点で個別設定ができる。	
	通信帯域・ビデオ会議画質（解像度）を各拠点で個別設定していても、サーバー側で一括変更できる。	
	通信品質状況が利用者で即座に判る。（他拠点の通信品質状況もわかる）	
	各種設定変更後、会議再接続（会議アプリ再起動）が不要である。	
	自動的にクライアントのアプリケーション更新が可能である。	

電子黒板	画面サイズは75inch以上とし、ペンツールで書き込み後、自動消去される指示ペン機能を有している。	
	保守運用性を考慮し、国内メーカー製品である。	
	電源、入力切替、ホーム、フリーズ、スクリーンショット、戻る、音量の物理ボタンを有する。	
	☒動できるように可搬型スタンドを用意されている。	
	可搬型スタンドは耐荷重等システムとしての安全性が確認されているメーカー純正品であり、会議室間の移動を考慮し、スタンド脚部の前後左右の長さが800mm以下である。また、高さを5段階以上に設定できる。	
専用タブレット端末	☒ニターは10.1型 以上で、静電容量式マルチタッチパネルである。	
	災害現場での活用を想定しているため、堅労性、防塵・防滴（IP65準拠）、耐振動性（MIL-STD-810H準拠）に優れた端末を選定されている。	
	有線ヘッドセットとショルダーストラップを付属する。	
	国内キャリアのLTE用SIM及びWi-fiでの接続に対応した機器を選定している。 タブレットの接続回線については、災害時に利用する回線であることを想定し準備されている。	
セキュリティ要件	いつ、どの拠点（誰）が、何の会議に接続したかや何のファイルを画面共有したかわかる。	
	☒大接続数、会議開催数などがレポートできるしくみがある。	
	録画機能の有効期限がセットできる。	
	セキュリティー担保の為、参加者が安易に会議資料を取得できないようPrintScreenキャプチャーを無効などしくみがある。	
	セキュリティー担保の為、会議サーバに会議で使用したデータを残さない仕様である。	
	セキュリティー担保の為、各クライアント間、クライアント・サーバ間でのファイル送信機能を有していない。	
	ユーザパスワードをユーザに定期的に変更させるしくみがある。	
	ユーザパスワードの再使用を回避させるパスワード世代管理のしくみを持っている。	
	ユーザパスワード誤入力が続いた場合に、使用停止させる機能があり、使用停止までの回数を設定できる。	
	暗号化通信される。	